

健苗を植えて気象変動に負けない、高品質・
良食味で安定収量の阿賀野市産米を作りましょう。

1 ー 基 肥 (効果:生育の安定確保)

- ◎高品質・良食味米生産のためには、土壌条件にあった施肥量で適正な生育量を確保しましょう。
- ◎基肥は水稻の栄養生長量を確保するために施用しますが、多用は過剰生育を招き、倒伏の原因となるので、適正な窒素濃度(葉色)を有効分げつ終止期が過ぎる頃まで維持できる量とし、良質茎確保に努めましょう。
- ◎有機質肥料は肥効が緩やかですので初期生育確保のため、べんとう肥(15g/箱)を施用しましょう。

2 ー ほ場の均平・代かき (効果:生育の平準・除草剤効果の安定)

- ◎ほ場の高低差が大きいと稲の生育が不均一となります。高品質・安定多収のために、可能な限り整地しましょう。
- ◎水持ちの改善や除草剤の処理層を均一にし残効性を高めるため、碎土が細かい丁寧な代かきをしましょう。
- ※春草が多く発生しているほ場では、いつもより少ない水で代かきを行い草を確実に土の中にもぐす。

3 ー 田 植 え (効果:適期・適性品種で品質維持)

- ◎コシヒカリ(中生)は出穂期～登熟期の高温登熟を回避するため、連休後半の5月5日以降(目標は5月10日以降)に移植しましょう。また、晩生品種は出穂後の積算温度を確保し品質を下げないために5月20日頃までに田植えを終えるようにしましょう。
- ※多収性品種(早生)ー早植えで早期分げつを確保 ・ 多収性品種(晩生)ー遅植えせず成熟期を早める。
- ◎田植えは2.0～2.4葉までの健苗を好天の日に行いましょう。(プール育苗は植え傷みしやすいので注意する。)
- ※老化苗を移植すると活着が遅く、低温時では初期分げつの発生が劣るので注意する。
- ◎ほ場整備後水田では、倒伏しやすい品種・いもち病の発生しやすい品種の作付けは避けましょう。
- ◎穂数の安定確保・過繁茂、細莖化を防ぐため栽植密度は50～60株/坪(15箱/50株、18箱/60株=10a箱数)。
- ※高地力や大豆跡の生育過剰傾向の水田や、常強風地帯など莖数が確保しにくい地域は栽植密度を調整する。
- ◎植付深さは2～3cmとし初期分げつを促進させましょう。 ※浅植えー薬害、浮き苗。 深植えー分げつ抑制。
- ◎いもち病の発生源になる恐れがあるため、補植後の苗は速やかに撤去しましょう。

4 ー 病 害 虫 防 除 (効果:斑点米防止で等級落ちを回避)

- ★カメムシ類による斑点米の発生防止対策を徹底しよう! 『3・2・1・0運動』
- 3週間おきに2回の一斉草刈りで、出穂後1回の地域一斉防除を徹底し、斑点米0(ゼロ)を目指しましょう!
- ※田植え前後、農道・畦畔のこまめな除草を実施。(カメムシのすみ処を作らせない)
- ※多年生雑草が優占している休耕田は適切な除草を行う。また、殺虫剤などでカメムシ類等対策に努める。
- ※早生品種では適期2回防除(個人防除+共同防除等)を実施し、斑点米の発生防止を徹底する。
- ※昨年被害発生があった地域では、コシヒカリでも2回防除(共同防除+個人防除)を実施する。

◎水稲育苗箱施用剤の種類と対象病害虫

| 区分 | 薬剤名 (○数字は農薬成分数) (ーは化学合成農薬ゼロ) | 対象病害虫 | | | | | | |
|------------|------------------------------------|-------|----------------|-----|-----------------|--------------|---------|-----|
| | | いもち病 | 穂枯れ (もみ枯細菌) | 紋枯病 | イネド ロ オイシ | イネミス ゾウムシ | ニカメイチュウ | イナゴ |
| 殺虫剤 | ①パディート箱粒剤 | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ーゼロカウント箱粒剤 | | | | ○ | ○(幼虫) | ○ | |
| | ①ワンリード箱粒剤 | | | | ○ | ○ | | |
| 殺菌・ 殺虫剤 | ②ツインターボ箱粒剤 | ○ | ○ | | ○ | ○ | | |
| | ③エバーゴルフオルテ箱粒剤 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | |

5 - 除草体系 ※除草体系は裏面に記載しております。

6 - 初期の水管理 (効果:良質茎の早期確保)

◎移植後は速やかに入水し、保温的水管理(3~4cm)で植え痛み防止、除草剤効果を高め、薬害防止に努めましょう。

◎活着後(田植え後8日)はやや浅水(2~3cm)とし、水温の上昇を図り分けつ発生を促し、良質茎を早期確保しましょう。

◎春雑草の生すき込み等により、ワキの発生が多いほ場については、夜干し・水の更新等を行いましょう。

※水を更新する場合は早朝に灌水し、日中は止水とし水温の上昇を図る。

◎アオミドロの発生が多いと初期生育不良の原因となります。(有機物やチッソ、リン酸等が多い、水温が高まると発生)効果のある除草剤の使用または、水の更新、落水により田面を軽く干すなどの対策で発生を抑えましょう。

7 - 中干し・溝切り (効果:過剰生育の抑制・根の発育促進)

・中干し・溝切りで生育を調整し、生育後期の稲体を健全に保ち登熟を良好にする。

◎移植後30日(目標穂数の80%確保。300本/m²)で直ちに実施し、梅雨入り前に中干しを開始しましょう。

※地力の高いほ場では、目標穂数の70%確保(270本/m²)時に行ってください。

◎中干しの目安ー小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度。

◎出穂の1ヵ月前までに中干しを終了しましょう。

※終了が遅れ、生殖成長期以降となると根域が縮小し根量が少なくなり、出穂後の葉色低下が大きく、等級低下を招く。

◎溝切り間隔ー8~10条に1本、縦溝と横溝を繋ぎ末端を排水路に接続、溝の深さは10cm以上を確保しましょう。

中干し・溝切りの効果

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ① 過剰分けつの発生抑制による適正生育量の確保。 | ④ 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保。 |
| ② 下位節間の伸長抑制による倒伏軽減。 | ⑤ フェーン等の緊急時の迅速な灌水。 |
| ③ 土壌への酸素供給による根の健全化。 | ⑥ 秋の長雨による停滞水の容易な排水。 |

| m ² 当たり 目標茎数 早見表 | 田植機 株セット | 1株の平均茎数(白字がm ² 目標数値) | | | | | |
|-----------------------------------|-------------|---------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 15本 | 16本 | 17本 | 18本 | 19本 | 20本 |
| | 50株 | 227 | 242 | 258 | 273 | 288 | 303 |
| | 60株 | 273 | 291 | 309 | 327 | 345 | 364 |

※カドミウム対策(湛水管理)を徹底するためにも適期中干しをしっかりと行ってください。

8 - 育苗後のハウス利用 (野菜等を栽培する場合の注意)

◎水稲育苗後のハウス内や育苗箱で、野菜等を栽培する場合はハウス内で水稲箱施用剤散布や田植え後の育苗箱の使用は行わないでください。

※水稲箱施用剤は水稲以外の作物に使用登録が無いので、ハウス内で散布や育苗箱を使用しますと、残留農薬が検出される場合がありますので注意してください。